

《新闻话语》“认知症”

大家是否知道“痴呆症”（正式叫“痴呆”）这种说法？它是指多发于高龄人群的、智力普遍下降的一种疾病。症状轻微时的表现是，虽然拥有过去的记忆，但记不清现在发生的事，或者是搞不清楚自己身处何处或者自己是谁；病情发展到中等程度时，就会出现思考力、判断力下降，从而失去计算及做饭的能力；当病情发展到严重程度时，便会出现味觉、以及嗅觉等知觉障碍，无法独立处理进食、大小便等身边的事务，身体也会衰弱下去。现在，虽然还没有根除这种疾病的治疗方法，但在医疗前线，阻止这种疾病的发展、以及进行早期发现的支援体制正在日趋完善。据厚生省推算、每两个被认定为需要护理的人中，就有一个，也就是说大约 200 万人（2004 年），都受到了“痴呆”的影响。今后，在迎来超高龄化社会的日本，“痴呆症”必然成为急剧增多的一种疾病。

在这种情况下，厚生省探讨会认为，“痴呆”不仅为污辱性的说法，而且没有正确表现出此种疾病的实际状况。探讨会以这种说法会妨碍其早期发现以及早期诊断为由，反复对病名进行了重新探讨。同探讨会于去年 12 月发表报告书，给所谓“痴呆”下了定义：“痴呆是指发生于成人中的认知（智能）障害”，并指出，罹患这种疾病的人，就是到了极晚期也还是拥有情感活动，而“痴呆”这种说法，会给人带来“什么都不知道”的误导，因而伤害高龄者的感情及自尊。探讨会因此提出了采用“认知症”一词来取代“痴呆”这一说法的见解。

为此，厚生劳动省于去年末向各都道府县、有关团体以及新闻协会等组织，发出了关于将“痴呆”一词改为“认知症”的通知，同时从去除对“认知症”的偏见这一角度出发，决定将 2005 年定为“了解认知症”之年，并进行集中宣传与报导。



《ニュースのことば》「認知症」

「痴呆症」（正しくは「痴呆」）という言葉をご存じでしょうか。高齢者に多い、知的能力全般が低下する病気です。軽度では、昔の記憶はあっても今起こったことの記憶がなくなったり、ここはどこか、自分は誰かがわからなくなったりします。中程度では思考力、判断力が低下して計算や料理ができなくなり、重度になると味覚、臭覚、嗅覚などの知覚にも障害が現れ、食事、トイレなどの身辺自立ができなくなり体も衰弱してきます。現在、この病気の抜本的な治療方法はありませんが、進行を遅らせるための医療現場の取り組みや早期発見のためのサポート体制作りが進められています。厚生省は要介護認定者の 2 人に 1 人、すなわち約 200 万人（2004 年）がこの「痴呆」の影響があると推計しました。今後、超高齢化社会を迎える日本で急増が必至の病気です。

このような状況の下で厚生省の検討会は、「痴呆」は侮蔑的な表現である上、実態を正確に表しておらず、早期発見・早期診断を妨げるとして、病名の検討を重ねてきました。同検討会は昨年 12 月報告書をまとめ、「痴呆とは成人に起こる認知（知能）障害である」と定義し、この病気になってもかなり末期まで感情の働きがあるにも関わらず、「痴呆」という言葉は「何もわからなくなる」という誤ったイメージを与えて高齢者の感情やプライドを傷つけると指摘し、「痴呆」に替わる用語として「認知症」を採用すべきだとの見解を示しました。

これを受けて厚生省は、都道府県、関係団体、新聞協会などに「痴呆」から「認知症」への用語変更に関する通知を昨年末に出すとともに、「認知症」への誤解や偏見をなくすため、2005 年を「認知症を知る 1 年」として集中的に広報することとしています。